

☆平川中学校は、「志を支え才を育む愛があふれる学校」に向かっているでしょうか? ☆

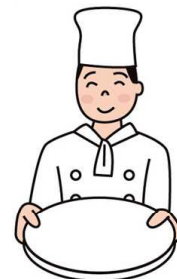
着任して8カ月。すばらしい環境や関係の方々・スタッフに恵まれ、めざす学校像の実現のために、日々具体的施策を考え推進しています。

長い2学期でしたが、生徒は常に前向きに取り組んできました。成果を確認しながら過ごせたことと生徒の成長の過程を喜びたいですし、感謝しています。

今後も平川校区だからこそできる教育をめざして、生徒と共に成長したいと思いません。ご支援ありがとうございました。よい年をお迎えください。

☆2学期の終わりに～努力は人を裏切らない ☆

村上信夫さんという調理人の方がおられました。日本におけるフランス料理の第一人者と言われていた方です。小学校5年生のときに両親をなくし、小学6年の2学期からは調理場で働かなければならなくなりました。仕事に余裕ができたときだけ、学校に行って勉強したそうです。(現在は福祉の仕組みにより、こういったことはなかなかないと思います。) 鍋洗いを徹底して行って周囲に認められ、料理の勉強はその場で手のひらにメモして後でノートにまとめました。学歴も語学も確かでなかった調理人が、やがて日本フランス料理界の最高峰にまでのぼり詰めることができたのは、「**智慧**」「**努力**」そして「**チャレンジ精神**」があったからではないでしょうか。 **どんなに苦しくても、自分をごまかしたりしないで、コツコツと努力して本物を身に付ける。この積み重ねがあった**からではないでしょうか。



「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるのなら、それはまだ努力とは呼べない。」(王 貞治)

「無駄になる努力はない。」(川上哲治)

「成功は人の表面を飾り、失敗は人の心を豊かにする。」(長友佑都)

「天才は有限、努力は無限」(中村 清)

☆電話について ☆

1890年(明治23年)の12月16日、東京と横浜間で電話事業が始まったそうです。

電話ははじめ、声を電気信号に変えて、離れた場所にいる相手と会話をするための道具として開発されました。それから130年。今ではその電気信号は、世界中に張り巡らされた電気通信網や衛星電波を使って、会話にとどまらない、社会における重要な通信手段の一つとなりました。

携帯電話の構想は、電話機が考案された初めころからあったそうですが、実際に日本で実用化されたのは30年ほど前で、初期機は重さが3kgもありました。現在は、パソコンとの差が少ないスマートフォンまでに進化したわけです。

便利さを求めて進化し続けた電話ですが、これでいいのかと感ずることもあります。

特に青少年にとっての影響です。友だち同士がSNSで連絡を取り合い、それまでよりも安心できる状況になったかという、逆に、短い言葉で伝え合うことで行き違いや誤解が生じたり、何気ない言葉が互いを傷つけ合う結果を招いていることが、少なからずあるのではないのでしょうか? また、携帯の操作に没頭するあまり、自分の時間や家族との大切な触れ合いが減ってしまうような状況もあるようです。

電話を文明の利器として上手に利用できるように、使う場所や時間を決めたり、基本的なマナーについて皆で話し合ったりするなど、電話に振り回されることのないよう気をつけたいものです。

☆キャリア教育とは何か ☆

「キャリア教育」という言葉。何となく分かったような気になっていますが、ここで改めて確認してみましょう。

キャリア教育とは何か・・・子どもが一人の社会人として自立できるよう、自分にふさわしい生き方を実現しようとする意欲や態度、能力を育むことを目的とした教育。

なぜキャリア教育が必要なのか・・・フリーターやニートの増加、早期離職率の上昇などが問題になっています。これらの社会問題は、雇用情勢の悪化など、環境の変化もありますが、若者の勤労観の希薄化のほか、対人関係形成能力や基本的マナーなど社会人・職業人としての資質や能力の低下も原因と考えられています。また、学校の学習が就職後どのように役立つのか分からないため、学習意欲が低下し勉強する習慣が身に付かないといった指摘もあります。

このようなことから、自分の生き方について考え、自立に必要な力を身に付けるキャリア教育が、重視されるようになりました。

※ 言い換えれば、「**生き方指導**」「**社会と学校とをつなぐ学習**」「**やる気を育む時間**」などと言えるかもしれません。

ただし、それは計画的に行われること、繰り返し行われること、などが必要な要素になります。また、地域社会の理解と協力が不可欠です。



～先生方に聞きました～ (キャリア企画)

「私が今の職業を決めたきっかけ、 教師でなければこの職業に就きたかった」



きっかけ編

○小学生高学年から中学生にかけて流行った「飛び出せ青春！」

「われら青春！」で、**すっかり青春にハマってしまった。**

現実の先生は、そこまで青春ではなかったもので、自分がやるしかないと思った。
(ちなみに新採の学校では、クラスの生徒に頼んで、**夕日に向けてジャンプした**)

○**大学時代の恩師の影響です。**教師という職業の魅力について日々語っていただき、教育実習もとても楽しかったので、決心しました。**人とのつながりや出会いによって、人生は変わるものですね。**

○**小学校の先生に憧れがあった**からです。授業外でもたくさん学ばせていただきましたし、助けていただいたことが印象に残っています。**自分もそんな人になりたい**と思いました。

○高校の理科の授業で、**岩石や星などについて学習して**「これしかないな」「こんなおもしろいことがあるんだ」「**この楽しさを伝えたいな**」と思ったからです。

○**小学生の頃から世の中の仕組みに興味があり**、テレビのクイズ番組や新聞をよくみていました。そうして好きになった社会科を**勉強したり教えたりする仕事**に就こうと思いました。

なければ編

○**カフェのマスターか映画監督。**人を楽しませる職業に就きたかったからです。

○**空港のグランドスタッフに就いてみたかった**です。他言語を駆使して仕事をしている方を見ると、かっこいいですし憧れます。

○**消防士。**28歳のときに、教員をやめて本気でめざそうかと悩んでいました。

○**料理人。**食べるのが好きだからです。

○**保育士。**まだ何も知らない子どもたちに身体を動かす楽しさや集団生活の大切さを伝えたい。あと小さい子どもが好きだからです。

○**農業に従事**したいです。山に入れば山の幸、畑では畑のもの、そして米。土にまみれて育てること、自然相手に頑張ること・・・すばらしいと思うからです。

○**ゲームクリエイター。**人の心を揺さぶるようなストーリーや演出を創り出したいからです。(できれば任天堂かカプコンで。)

○パンのにおいと旅行が好きなので、**パン屋さんか駅や空港で働いてみたかった。**

○**歌手!**武道館で歌ってみたい!・・・それまでになるのはすごく大変なんでしょうが。

○**医師。**そして国境なき医師団に参加したい。出産をして命の尊さに感動して、その思いを強くしました。

○**建築家。**関門大橋のような大きな建築物を設計してみたい。

☆本から学んだこと ～未来を生きる子どもたちへ～☆

本というのはやはり、トモダチであり、センセイです。もちろん「読んで良かった。」と思える本ばかりではありませんが、読まなければ、良いかどうか分かりませんからね。さて、『PHP』という本に次のような文章がありましたので、紹介します。

失敗したら、「次」へ行こう!

千原せいじ



人に頼ったほうがおもしろい。誰かを頼ろうとして「断られたらどうしよう・・・」と不安になる人もいるようだけど、そんな悩みこそ時間の無駄。断られたら別の人を探せばいいだけのことなんだから、そんなにビクビクしなくていいんです。

これでも悩みのタネがないわけじゃないし、円形脱毛症になってしまったことだってある。でもね、悩みはあっても悩まないことです。毛が抜けたら油性マジックで塗るときゃいい。そのうち自然と治るから。悩みなんてたいていはそういうもんじゃないですか。

海外で活躍していたあるプロアスリートからこんな話を聞きました。試合中にミスをしてコーチや監督に謝るのは日本人だけだって。試合はまだ終わってないし、負けてもいいない。大事なものは、その時点で反省するより「ネクスト」、次をどうするかなんだよと。

人生はトーナメント戦じゃなくて、何度も戦うリーグ戦だと思えば、気がラクです。さっさと次にいきましょう。それが人生をおもしろくするコツじゃないでしょうか。